100余橋 写真と解説で 『美しき鉄道橋の世界』刊行

『土建屋の長男』武田元秀さん

全国100余の鉄道橋をカラー写真と解説で紹介した書籍「美しき鉄道橋の世界」（**写真左**）が、天夢人社から刊行された。著者の武田元秀さん（**写真上**）は、他の著書によると「土建屋の長男」として生まれ、工事現場が子供の頃の遊び場だった人。ゼネコン勤務を経て朝日新聞記者を務めた。鉄道の安全と効率を追求し、かつ美しい風景を作り出した先人への尊敬が行間にあふれる本となっている。

「橋はなるべく架けたくなかったのでは」

橋はなるべく架けたくない。鉄道草創期、敷設にカネを出す側はそう思っていたのではないか。

武田さんはそんな感想を持っている。

例えば、北海道のJR宗谷本線。全長259・4kmの線路は名寄駅辺りから天塩川の近くを走るが、流れの右岸に沿って見事なまでにカーブしている。幌延駅近くで別れるまで、細い支流は置いて、本流にはただ1本の橋も架かっていない。石狩川に次ぐ道内第2の大河を渡るのを避けているかのようだ。

「当時の日本に橋梁を架けるために必要な資材と技術はなく、ほとんどすべてを輸入と外国人技術者に頼って」いた。だから「膨大な資金が必要」だったからだろう。武田さんは、そうみている。

その場所に最も

とはいえ、川は蛇行を重ねるから、どうしても橋が必要な場合もある。「岐阜県のJR高山本線は途中60㎞ほどの区間で、益田川（飛騨川上流）の本流21カ所に橋梁を架けなければ」ならなかった。

そうした中で、技術者たちはどう取り組んできたのか。「時代時代で限られた予算枠とせめぎあいながら自身の知識・経験と最新の技術を駆使して、さまざまな川で『その場所に最もふさわしい』形の橋梁を架け続けて」きたという。

地味でありながら

武田さんはまた、鉄道橋に求められる美しさについて、「美しき」橋を、カメラマン4人の作品と武田さんの文章で本にまとめた。A5判、159ページ。1800円（税別）。

（写真は武田さんと夫夢人社提供）

「『橋梁の勝ち』みたいな気がする」

武田さんが好きなJR飯田線「第六水窪（みさくぼ）川橋梁」（静岡県浜松市、**写真左**、書籍に掲載せず）。川を渡らない橋、つまり、対岸に着きそうな所でS字カーブし、元の岸に戻ってしまう「渡らずの鉄橋」だ。

岸に迫る山肌を当初はトンネルで抜ける計画だったが、一帯は「中央構造線」という大断層地帯。「掘削中のトンネルが中央構造線の地殻変動により崩落し、やむなくその部分を迂回したためにできた」（同市資料）鉄橋だった。

「何となく『橋の勝ち』みたいな気がする」と、武田さん。

同じ橋
三たび渡りぬ　春の宵
夏目漱石

一輪挿し

春の日が暮れて間もない頃。月か、桜か。目に入るもの、すべてが美しい。まさに「一刻値千金」を風流に味わって、気が付いたら同じ橋を3度も渡っていた――ではないような雰囲気が、文豪にはなくのである。「恨」とは。どんな物思いにふけっていたのだろう。

漂う。似た五言絶句も遺している。「三たび過ぐ衰柳（すいりゅう）＝葉が青々と茂った柳のこと）の橋」。これは「春恨幾条条」と続

令和2年度 土木学会選奨土木遺産 ⑨

土木学会提供

阪急神戸市内線高架橋

（神戸市灘区―中央区）

阪急神戸本線が1936年（昭和11年）、神戸三宮駅に乗り入れた時に建造された。

アーチ橋部分は鉄筋コンクリート充腹形式で、65・5m＋25・0m＋49・07m。その他の部分は、鉄筋コンクリートラーメン橋。

日本初の鉄筋コンクリート高架橋・東京十九柱橋間を手掛けた建築家の阿部美樹志が設計した。

土木学会からは、「優美な曲線をもつ洗練された造形と、阪神・淡路大震災にも耐えた堅牢さを備えている」と評価された。

阪急電鉄は「スタイリッシュな中にクラシックなデザイン」「神戸の街の風景の1つとして親しまれている」としている。

橋に咲く

コロナ禍 でも努力は報われる

ショーボンド建設

首都圏北陸支社　営業部　宮地南奈子さん

「さあ、お客様の元へ」。東京支店の社屋からさっそうと出てきた。折からの強い風で、髪がなびいた。

コロナ禍の今、営業職は厳しい。会社訪問ができる。電話をかけまくってきにくい状況が続いていも、アポすら取れない。

「せめて、ご担当の方につないでいただけませんか」。そうお願いしても窓口で断られる苦しい日が続く。だから、努力が報われると、外へ出る姿もさっそうとするはずだ。

都内の公園に架かる人道橋の耐震補強に着目した。あるコンサルに自社の「せん断ストッパー」（桁の変位制限と浮上防止構造装置）を提案したら採用され、設計折込まで初めてまとめられた。

「提案してもらって、助かりました」。客先がそう喜び、より一層のやりがいを感じた。

大阪生まれ、千葉育ち。母親が測量の仕事をしていた関係で、幼い頃から土木が身近にあった。木更津高専を卒業して入社。近畿圏支社で1年の研修を経て、現部署へ。

思い出深いのは、19年冬の東名高速集中工事。伸縮装置の取り替えで、音とほこり、外工事の寒さを体感した。既設の撤去に予想以上の時間がかかるケースがあることも知った。ジェットコンクリートの速乾性を目の当たりにしたりもし、その後の営業活動に具体的なイメージを持てるようになった。

この現場はプライベートでも度々走る。"私が担当した橋なの"。一瞬の通過で友人が困惑しても、胸を張って伝えられる。

「何事にも真摯に向き合う。ユーモアも」。社内外で、信頼は厚い。

新技術登録！ サビバリヤー
NETIS登録 CB-170003-A（開発登録5986064号）
技術の特徴
①塗装サイクルの長期化
②ＬＣＣの低減
③工期短縮
④マグネタイト化技術
⑤人件費、経費削減
⑥有害な重金属を含まない
施工実績 60件

環境・現場作業員への安全のために
水系塗膜剥離剤「MT-BERON57」シリーズ
「MT-BERON57」シリーズの特徴
低臭気！ 消防法危険物に非該当！ 人体への影響に配慮！
塗膜、アスベスト等の剥離
施工実績 60件

錆転換型防食塗装システム
エポガードシステム
橋梁への採用 1900件
NETIS登録 CB-080011-VR

株式会社 エコクリーン
エコクリーン 三重 検索
E-mail:info@ecoclean-mie.co.jp
本社 〒515-0044 三重県松阪市久保町1587-1 TEL 0598-20-2677 FAX 0598-60-1557
九州支店 〒861-8046 熊本県熊本市東区石原3丁目10-3 TEL 096-237-8860 FAX 096-349-7107
東京事業所